

院内中期計画

(平成30年度～平成35年度)

【各委員会】

茨城県立中央病院

平成29年10月

はじめに

茨城県立中央病院は、茨城県立こころの医療センター、茨城県立こども病院とともに平成30-35年度の中期計画を作成中です。茨城県立中央病院としては、病院内の各部署(診療科, センター, 委員会, 局など)ごとに中期計画を立て、ボトムアップに本院の中期計画を立てることを試みています。

今回が初めての試みであることから、各部署の中期計画は必ずしも病院が公認する(実現を保証する)ものでは有りませんが、各部署の中期計画を病院として応援してゆく所存です。各部署の中期計画は、副院長が指名した担当者、副院長、病院長が順にチェックしていますが、各部署の意向はできるだけ尊重しています。すでに、本病院の中期計画に採用させていただいているものも少なくありません。

本病院の中期計画は3年後にしか見直す機会が与えられませんが、病院内の各部署の中期計画は毎年変更することを許容する方針です。このような試みを継続することで、各部署の中期計画の集大成として病院の中期計画を作成することを実現できるようになるでしょう。病院運営を目標達成型運営, ビジョン追求型運営とし、トップダウン型運営からボトムアップ型運営へ変換してゆくきっかけになることを期待しています。

今回、各部署の中期計画を診療科, センターなどに分けてまとめさせていただきました。ホームページにも発表することで、院外からご意見をいただくとともに、院内においては他の部署の中期計画を理解し、今後の改訂の参考にしてもらいたいと考えています。

平成29年10月1日

病院長 吉川 裕之

目 次

倫理委員会	5
ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理委員会	6
医療安全管理対策委員会	7
臨床研修管理委員会	8
薬事委員会	10
化学療法安全管理委員会	11
禁煙推進委員会	12
感染対策委員会	13
病棟委員会	14
手術室運営委員会	15
救急センター運営・虐待防止委員会	16
化学療法センター運営委員会	17
循環器センター運営委員会	18
ダヴィンチ利用委員会	19
輸血療法管理委員会	20
臨床検査委員会	21
栄養管理委員会	22

診療情報委員会	23
システム委員会	24
COI委員会・COI審査委員会	25
医療ガス・医療機器安全管理委員会	26
災害対策委員会	27
臓器移植調整委員会	28
DMAT(災害時急性期医療)チーム	29
健康支援室	30
臨床試験推進センター	31
地域連携・患者支援センター	32

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	倫理委員会			
ミッション等	ミッション: 治験・臨床試験を除く医学研究と医療行為等の倫理審査 ビジョン: 倫理審査業務の独立性・公正性の確立			
中期計画の項目	①倫理審査の効率的施行 ②倫理審査対応の拡大 ③倫理制度および倫理的思考の教育・普及			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	①	○審査制度の検討 ・倫理性、社会規範の変化に対応した倫理審査基準の経時的改正 ・通常審査、迅速審査による至適かつ柔軟な対応	⇒	⇒
	②	○院内案件の審査 ○院外案件の審査への対応（他医療施設、民間など）	⇒	⇒
	③	○倫理審査についての研修会開催など	⇒	⇒
		H33年度	H34年度	H35年度
	①	⇒	⇒	○秘匿性を充分確保した下での通信システムを使用した倫理審査会議の開催
	②	⇒	⇒	⇒
	③	⇒	⇒	⇒
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	ヒトゲノム倫理委員会			
ミッション等	ミッション: 医学研究・医療行為等におけるヒトゲノムに係る倫理審査 ビジョン: ヒトゲノム倫理審査業務の独立性・公正性の確立			
中期計画の項目	①ヒトゲノム倫理審査の効率的施行 ②ヒトゲノム倫理審査対応の拡大 ③ヒトゲノム倫理制度および倫理的思考の教育・普及			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	①	○ヒトゲノム審査制度の検討・倫理性、社会規範の変化に対応した倫理審査基準の経時的改正 ・通常審査、迅速審査による至適かつ柔軟な対応 ・但し、ヒトゲノム案件においては、その倫理性について、人間の尊厳を普遍的に尊重し、不可侵なものであることを遵守する・審査については、全会一致を原則とする	⇒	⇒
	②	○院内ヒトゲノム案件の審査 ○院外ヒトゲノム案件の審査への対応(他医療施設、民間など) ○専門性・先進性があることに特化し、その責任において広い審査対応をめざす	⇒	⇒
	③	○ヒトゲノムについて、基本的知識などを十分に習得し、その理解の下、倫理性について審査をおこない、結果について周知する ○ヒトゲノム倫理審査についての研修会開催など	⇒	⇒
		H33年度	H34年度	H35年度
	①	⇒	⇒	○秘匿性を充分確保した下での通信システムを使用したヒトゲノム倫理審査会議の開催
	②	⇒	⇒	⇒
	③	⇒	⇒	⇒
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	医療安全管理対策室			
ミッション等	ミッション:安全で質の高い医療を提供するための支援を行う ビジョン:医療安全、感染対策、職員安全機能の統合			
中期計画の項目	1.医療安全教育の質的向上 2.医療安全管理対策室、感染対策室、健康支援室、患者相談室を統合し互いの支援を行う 3.弁護士と顧問契約を締結する			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	1	年2回行われる医療安全研修会をビデオ保存し欠席者および反復学習希望者にDVDで提供できる体制を構築する	医療安全研修会DVDを保存し過去の研修を繰り返し学習提供できる体制を構築する	医療安全研修会Eラーニング体制を構築する
	2	医療安全管理対策室、感染対策室、健康支援室、患者相談室の業務内容を確認し、業務に必要な人員、執務室、備品を調査する	医療安全管理対策室、感染対策室、健康支援室、患者相談室の合同執務室をシュミレーションし、必要な人員、執務室、備品を明らかにする	医療安全管理対策室、感染対策室、健康支援室、患者相談室のうち可能な部署をで合同執務を行う
	3	医療安全に関わる弁護士依頼用件を調査する	医療安全に関わる弁護士顧問契約について調査し妥当性を検討する	医療安全に関わる弁護士顧問契約を締結する
		H33年度	H34年度	H35年度
	1	医療安全研修会Eラーニングを行う	医療安全研修会Eラーニングを行う	医療安全研修会Eラーニングを行う
	2	医療安全管理対策室、感染対策室、健康支援室、患者相談室のうち可能な部署をで合同執務を行う	医療安全管理対策室、感染対策室、健康支援室、患者相談室で合同執務を行う	医療安全管理対策室、感染対策室、健康支援室、患者相談室で合同執務を行う
	3	医療安全に関わる弁護士顧問契約を締結する	医療安全に関わる弁護士顧問契約を締結する	医療安全に関わる弁護士顧問契約を締結する
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績	1.医療安全研修はDVDに記録し上映会を行っている 2.医療安全管理対策室、感染対策室、健康支援室、患者相談室は独立した執務室で各業務を行っている。3.顧問弁護士契約はない		

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	臨床研修管理委員会				
ミッション等	ミッション: 初期研修医・後期研修医(専攻医)の研修を監理すること。 ビジョン: 標準治療を自ら実践できる基本的診療能力を有する臨床医の育成。				
中期計画の項目	主に次の項目について臨床研修体制及び専門研修体制の充実・強化を目指して取り組みます。 特に、本県修学生研修医増加への対応及び新専門医制度開始以後の対応を主軸といたします。 ア 臨床研修の在り方検討及び質の改善 イ スキルラボ室の移動及びオープン化 ウ 新たな後期研修(専門研修)制度開始への対応				
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度	
	ア	ア-1	臨床研修病院としての在り方検討及び検討結果への対応(事務担当者の増員を含む)	→	→
		ア-2	臨床研修指導医及びプログラム責任者の養成	→	→
		ア-3	臨床研修プログラムの改善及び病院群の再構築等	→	→
		ア-4	外部評価受審準備(訪問) H29認定結果公開	外部評価受審(訪問) H31認定結果公開	外部評価受審準備(書類) H31認定結果公開
		ア-5	臨床研修医の勤務態様の見直し(事前調査を含む)	関係規程の改正等	→
		ア-6	臨床研修センターの充実・整備(事務担当者の増員, 実体化)	→	→
	イ	イ-1	新プレハブ棟内にスキルラボ室を移動		
		イ-2	教育用シミュレーターの管理(保守・点検等を含む)	→	→
		イ-3	PTLS等の他部局行事への協力(オープン化)	→	→
		イ-4		サブスペシャリティ研修に耐えられるシミュレーターの増設等を計画	必要に応じたシミュレーター機器の増設等
	ウ	ウ-1	専門研修制度開始		
		ウ-2	基幹施設としての運用(内科, 外科, 総診の各領域) ※遠隔指導に係るテレビ会議システム等のインフラ整備を含む	→	→
		ウ-3	連携施設としての運用(全19領域)		
		ウ-4	地域密着型専攻医の採用強化(内科, 外科, 総診)毎年各1名以上	→	→
		ウ-5	本県修学生医師の専門研修に係る他部局への協力	→	→
		ウ-6		サブスペシャリティ研修制度(仮称)開始準備	→
			H33年度	H34年度	H35年度
	ア	ア-1	→	→	→
		ア-2	→	→	→
		ア-3	→	→	→
		ア-4	外部評価受審(書類) H33認定結果公開	外部評価受審準備(訪問) H33認定結果公開	外部評価受審(訪問) H35認定結果公開
		ア-5			
		ア-6	→	→	→

	イ	イ-1			
		イ-2	→	→	→
		イ-3	→	→	→
		イ-4	→	→	→
	ウ	ウ-1			
		ウ-2			
		ウ-3	→	→	→
		ウ-4	→	→	→
		ウ-5	→	→	→
		ウ-6	サブスペシャリティ研修制度(仮称)開始	サブスペシャリティ研修制度(仮称)への対応(詳細未定)	
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績	<p>【ア 臨床研修の在り方検討及び質の改善】</p> <p>○H24年度の在り方検討結果を受け、抜本的な見直しに着手。H29年度まで毎年、各年度の変化に合わせた研修プログラムの大幅改正及び病院群の再構築。</p> <p>○指導医数 H24年度41名 → H29年度76名 ○指導医養成講習会参加医師数 H23年度 2名 → H28年度11名</p> <p>○マッチング結果(当院プロ研修医数) H24年度0名(6名)→H29年度9名(22名)</p> <p>○外部評価受審 初回H26年3月(2年認定)→初回更新H28年3月(4年認定)</p> <p>○臨床研修センター設置 H26.4.1</p> <p>【イ スキルラボ室移転及びオープン化】</p> <p>○スキルラボ室設置(がんセンター棟1階) H24.2.13 (筑波大地域臨床教育センターによるドライボックス2機と教育DVD視聴設備の設置)</p> <p>○H27年度 大型シミュレーション機器(CVエコー, 腹部エコーモデル)の配備</p> <p>○H29年度 院内各所に点在する教育用シミュレーターの適正保守のための調査開始</p> <p>【ウ 新たな後期研修(専門研修)制度開始への対応】</p> <p>○H27年度 新たな研修制度に関する情報収集等</p> <p>○H28年度 当初はH29年度開始とされていたため、基幹施設となるための手続き(内科, 外科, 総診)及び連携施設となるための手続き(19基本領域)</p> <p>○H29年度 本制度のH30年度開始が概ね確定されたため、改めて関係手続中</p>			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	薬事委員会		
ミッション等	<p>ミッション: 薬剤の適正使用及び管理を図ることにより, よりよい薬物療法を患者へ提供するとともに, 病院経営の適正化を図る。</p> <p>ビジョン: 多剤併用患者に対する服用薬剤の整理等薬剤の適正使用を推進することによって, 不要な薬剤の服用を中止し, 服用薬剤数を減らす結果, 患者の服薬アドヒアランスの向上に寄与するとともに, 薬剤購入費を縮減する。</p>		
中期計画の項目	<p>1. 他院の取組みについて情報収集する。(栃木医療センター, 千葉大学附属病院, 神戸大学医学部附属病院)</p> <p>2. 1. と平行して「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015(日本老年医学会)」等参考となる文献を調査し, 当院で開始するにあたってのプロトコール等を整備する。また, 必要に応じて院内関係部署等におけるWGを設置し, 各職種間での意思の疎通を図る。</p> <p>3. 「薬剤総合評価調整加算」について算定できるよう必要書類を届け出る。</p>		
年度別計画	H30年度	H31年度	H32年度
	H33年度	H34年度	H35年度
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	各病棟薬剤師の裁量で行っているため, 実績を把握していない。		

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	化学療法安全管理委員会			
ミッション等	ミッション:がん化学療法のレジメン登録・安全管理等を行うこと. ビジョン:がん化学療法の有効性・安全性を担保し、より良い治療成績が達成できる体制とすること			
中期計画の項目	がん薬物療法に精通した薬剤師の育成			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
		がん薬物療法認定薬剤師研修事業における研修施設の認定 がん薬物療法認定薬剤師の養成	→	
		H33年度	H34年度	H35年度
		1名認定取得 がん薬物療法認定薬剤師の養成	→	
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	平成28年度にがん専門薬剤師1名、がん薬物療法認定薬剤師1名が認定を取得し、研修施設としての要件を満たした			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	禁煙推進委員会			
ミッション等	ミッション:タバコの害から, 病院内・病院外の人を守る。 ビジョン:喫煙者ゼロ・受動喫煙ゼロにし、委員会解散を目指す。			
中期計画の項目	1 禁煙外来の拡大 2 受動喫煙対策 3 喫煙防止教育 4 啓発			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	1	禁煙外来の拡大 ①周術期の禁煙支援 ②職員の喫煙者の把握, 禁煙支援	⇒	⇒
	2	院内の受動喫煙防止の徹底 (職員・患者・来院者) ①近隣施設との敷地内, 敷地外での禁煙対策 ②国, 県, 市町村との協力	⇒	⇒
	3	喫煙防止教育 ①学校との喫煙防止教育の連携	⇒	⇒
	4	啓発 ①動機付け面接の研修 ②国の協賛による研修会の継続 ③禁煙関係の研修会等への参加, 発表	⇒	⇒
		H33年度	H34年度	H35年度
		⇒	⇒	⇒
		⇒	⇒	⇒
		⇒	⇒	⇒
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績	敷地内禁煙の徹底 世界禁煙デー習慣における啓発展示 動機付け面接の研修 禁煙推進関連学会, 禁煙指導者研修会等開催		

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	感染対策委員会・感染制御チーム・感染制御室			
ミッション等	ミッション: 医療関連感染予防対策の充実と抗菌薬適正使用の促進 ビジョン: 医療関連感染の低減と薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン目標の達成			
中期計画の項目	ミッション・ビジョンを達成するために下記に取り組む。 A) 医療処置関連感染サーベイランスの強化 B) AST(抗菌薬適正使用支援チーム)の立ち上げと活動強化 C) 感染防止対策業務の強化			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・SSI(手術部位感染)サーベイランスWG立ち上げ、定期会議開催 ・CAUTI(尿道留置カテーテル関連尿路感染)サーベイランスアセスメントフロー活用開始 ・PLABSI(末梢血管カテーテル関連血流感染サーベイランス)トライアル開始(一部病棟) 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSI対策立案、介入策の評価 ・CAUTI排泄ケアチームと協働し学会発表 ・PLABSI正式に開始(データベース調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSI継続 ・CAUTI継続 ・PLABSI結果・取り組みについて学会発表
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・AST立ち上げ ・抗菌薬ラウンドの強化 ・AMRアクションプラン目標と当院データの定期的フィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> 研修医への教育、AST活動への参加 ・抗菌薬化学療法認定薬剤師の育成 	継続
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・感染管理認定看護師資格取得・感染制御室への専任配置 ・ICTコアメンバーの活動時間確保(週1日換算) ・感染制御認定臨床微生物検査技師の育成 ・リンクススタッフ育成(看護部門以外の部署) 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染管理認定看護師2人目の感染制御室への専任配置 ・感染制御認定臨床微生物検査技師の誕生・専任配置 ・リンクススタッフ会立ち上げ・育成強化 ・医療安全、健康支援室との連携強化(3部門共通の専任事務スタッフ配置) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTコアメンバーの活動時間確保(週1.5日換算) ・細菌検査室の2名増員(業務拡大・体制強化) ・職員データシステムの一元化(医療安全、健康支援室と)
		H33年度	H34年度	H35年度
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・SSI継続 ・CAUTI継続 ・PLABSI継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSI継続 ・CAUTI継続 ・PLABSI継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSI継続 ・CAUTI継続 ・PLABSI継続
	B	<ul style="list-style-type: none"> 継続 ・抗菌薬化学療法認定薬剤師1名誕生・専任 	継続	継続
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・感染管理認定看護師3人目の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染管理認定看護師3人目誕生・専任配置 	継続
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	病棟委員会			
ミッション等	ミッション:入院患者へのサービス向上 ビジョン:面会者以外の病棟立入防止,入院患者の行方不明防止並びに6人部屋の解消			
中期計画の項目	ミッション及びビジョンを達成するため,次のとおり取り組みを行う。 (a)面会証の管理を厳重に行う (b)入院患者が行方不明となる事態を減らす (c)6人部屋の解消に伴う療養環境の向上			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	○年2回面会ルール運用に関する打合せを行い,問題発生時には委員会で改善方策を検討する。 ○紛失した面会証の悪用防止のため,年1回面会証の色を変更する		→
	b	○行方不明となるリスクが高い患者には, GPSを取り付ける。 ・行方不明が高い患者の選定方法の検討 ・GPSの取付方法の検討	○GPS購入のための予算要求	○GPS取付の運用開始 ○運用に関する評価
	c	○新棟建設時に病室数が増える →新棟建設に向け,6人部屋の解消のための検討をする。		→
		H33年度	H34年度	H35年度
	a	○年2回面会ルール運用に関する打合せを行い,問題発生時には委員会で改善方策を検討する。 ○紛失した面会証の悪用防止のため,年1回面会証の色を変更する		→
	b	○GPS取付の運用開始 ○運用に関する評価		→
	c	○新棟建設時に病室数が増える →新棟建設に向け,6人部屋の解消のための検討をする。		→
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	(a)平成28年度から年2回,面会ルールWGを開催している。 平成29年度は面会証の色を変更予定である。 (b)(c)検討未実施。			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	手術室運営委員会				
ミッション等	ミッション:手術室運営を通して手術患者さんの予後改善へ貢献する ビジョン:手術室運営の安全性と効率性の向上を行う				
中期計画の項目	ミッション・ビジョンを達成するために下記に取り組む。 a)手術室担当CEを要望し、中央材料部との連携し、ME機器、診療材料の保守、購入の効率化 b)データに基づいた手術部マネジメント業務を行う				
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度	
	a)	手術室担当CEを要望し、手術室のME機器の保守、購入に関して各診療科共通器材の購入を進め、さらに中央材料部の仕事との連携を進め契約内容・手術材料購入に関する効率化を進める。	手術室担当CEを要望し、手術室のME機器の保守、購入に関して各診療科共通器材の購入を進め、さらに中央材料部の仕事との連携を進め契約内容・手術材料購入に関する効率化を進める。	手術室担当CEを要望し、手術室のME機器の保守、購入に関して各診療科共通器材の購入を進め、さらに中央材料部の仕事との連携を進め契約内容・手術材料購入に関する効率化を進める。	
	b)	データに基づいた「手術枠の調整」、「消毒・滅菌」、「感染制御」、「手術室内清潔環境維持」、「医療安全」、「医療機器管理」の手術部マネジメント業務により、手術数増加につなげる	データに基づいた「手術枠の調整」、「消毒・滅菌」、「感染制御」、「手術室内清潔環境維持」、「医療安全」、「医療機器管理」の手術部マネジメント業務により、手術数増加につなげる	データに基づいた「手術枠の調整」、「消毒・滅菌」、「感染制御」、「手術室内清潔環境維持」、「医療安全」、「医療機器管理」の手術部マネジメント業務により、手術数増加につなげる	
		H33年度	H34年度	H35年度	
	a)	手術室担当CEを要望し、手術室のME機器の保守、購入に関して各診療科共通器材の購入を進め、さらに中央材料部の仕事との連携を進め契約内容・手術材料購入に関する効率化を進める。	手術室担当CEを要望し、手術室のME機器の保守、購入に関して各診療科共通器材の購入を進め、さらに中央材料部の仕事との連携を進め契約内容・手術材料購入に関する効率化を進める。	手術室担当CEを要望し、手術室のME機器の保守、購入に関して各診療科共通器材の購入を進め、さらに中央材料部の仕事との連携を進め契約内容・手術材料購入に関する効率化を進める。	
	b)	データに基づいた「手術枠の調整」、「消毒・滅菌」、「感染制御」、「手術室内清潔環境維持」、「医療安全」、「医療機器管理」の手術部マネジメント業務により、手術数増加につなげる	データに基づいた「手術枠の調整」、「消毒・滅菌」、「感染制御」、「手術室内清潔環境維持」、「医療安全」、「医療機器管理」の手術部マネジメント業務により、手術数増加につなげる	データに基づいた「手術枠の調整」、「消毒・滅菌」、「感染制御」、「手術室内清潔環境維持」、「医療安全」、「医療機器管理」の手術部マネジメント業務により、手術数増加につなげる	
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績	a)手術診療材料を新規に購入する際は、手術室運営委員会の終了後に行われる会議で検討を開始した。 b)手術予定時間と実際の手術時間の違いを術者別に毎月貼り出し、改善を促している。			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	救急センター運営・虐待防止委員会			
ミッション等	<p>ミッション:救急医療業務運営を円滑に行うこと、及び、虐待防止に貢献すること。</p> <p>ビジョン:救急医療により県民の生命・健康を守る体制を進歩させていく。また、虐待の防止を推進する。</p>			
中期計画の項目	救急医療を実施するに際し、救急センター運営・虐待防止委員会を設置し業務の適切・円滑な運営を図るものとする。			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
		<p>次の事項について検討・調整を行う。</p> <p>(1) 病院の救急医療業務の体制に関する事項</p> <p>(2) 救急医療業務運営の円滑化・効率化に関する事項</p> <p>(3) 救急医療運用マニュアル等の見直し・検討・調整に関する事項</p> <p>(4) 虐待防止および被虐待児の判定に関わる事項</p> <p>(5) その他本委員会が必要と認めた事項</p>	→	→
		H33年度	H34年度	H35年度
		→	→	→
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	<p>年11回開催。毎月の実績報告の他、救急患者の適正な受け入れに関する事、救急外来滞在時間の短縮のための方策、救急外来での診療に関わる諸事項(検査関係、感染症関係、警察からの依頼の検案・Ail)に関する事、転院搬送に関する事、など)の連絡調整及び対応方法の策定を行った。</p> <p>H27年度は救急診療マニュアルを改訂し、H28年度は救急医療マニュアルを改訂した。</p> <p>H26.3月から笠間市とドクターカー運行協定を締結し、ドクターカーの運行を開始した。H27.12月からラピッドカーを導入した。H29.4月から石岡市消防本部、小美玉市消防本部とドクターカー運行協定を締結した。</p> <p>H24年度から虐待防止作業部会を開催し、H25年度からH28年度までの取扱件数は、年平均16件であった。</p>			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	化学療法センター・化学療法センター運営委員会			
ミッション等	ミッション:安全・安心なエビデンスに基づいたがん化学療法の実践 ビジョン:チーム医療による化学療法のシステム化			
中期計画の項目	a)人材育成 b)外来で実施可能な化学療法を外来へ移行			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	・人材育成 腫瘍内科医4名 (がん薬物療法専門医2名) がん専門薬剤師1名 がん化学療法認定薬剤師1名 がん化学療法認定看護師2名 の診療体制を確立する。	(継続的に人材育成・リクルートを行い平成32年度内には達成することを目標とする)	
	b		・外来で可能な化学療法は原則として全て外来へ移行し、可能なものについては腫瘍内科医が担当	
			H28年度の外来化学療法実施率:71% 中期計画期間内に80%まで上昇させることを目標とする	
		H33年度	H34年度	H35年度
	a			
b				
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	a)現在、化学療法センターに勤務する専門スタッフの人数は以下のとおり。がん薬物療法専門医:0、がん専門薬剤師:1、がん化学療法認定看護師:1。 b)平成28年度、化学療法外来移行率は71%。			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	循環器センター・循環器センター運営委員会			
ミッション等	ミッション: 心大血管系が健康に機能するように尽力する。 ビジョン: 心大血管疾患の障害を克服することで県民の誰もが健康に長生きできる社会を創る。			
中期計画の項目	ア. 開胸手術数年間100例以上を達成し、維持する。 イ. 心筋再生医療の実施を目指す。			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	ア	開胸手術数年間100例以上を目標にする。	開胸手術数年間100例以上を達成する。	→
	イ	心筋再生医療の実施を目指して、企画とともに必要な研修を重ねる。 ハイブリッド手術室を要望する。		→
		H33年度	H34年度	H35年度
	ア	開胸手術数年間100例以上を維持する。		→
	イ	ハイブリッド手術室を実現する	専門施設で研修・研鑽する。	心筋再生医療の実施する。
計画期間前 (平成29年度まで) の実績				

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	ダヴィンチ利用委員会			
ミッション等	ミッション:ダヴィンチ手術の適用が安全に拡大するように監理すること. ビジョン:欧米と同レベルにダヴィンチ手術が活用される体制とすること.			
中期計画の項目	ダヴィンチ手術の臨床研究の拡大			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	臨床研究の実施 ・婦人科(子宮全摘+骨盤リンパ節郭清) ・消化器外科(下部直腸癌の低位前方切除術) ・呼吸器外科(肺葉切除術+縦隔リンパ節郭清, 拡大胸腺摘除術, 縦隔腫瘍摘出術)		
		H33年度	H34年度	H35年度
	a			
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	現在の保険診療適用は, 泌尿器科の前立腺全摘術及び腎部分切除術の2種類。膀胱全摘術については, 自由診療実施。また, 呼吸器外科の臨床研究「縦隔腫瘍摘出術」は, 2例目が開始となっている。			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	輸血療法管理委員会			
ミッション等	ミッション: 適正な輸血療法の維持・推進 ビジョン: 輸血管理料等の施設基準厳格化に備えた体制維持や拡充			
中期計画の項目	輸血管理料I、輸血適正使用加算、の施設基準維持			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
		適正輸血の推進、FFP/MAP 使用量<0.54、Alb/MAP使用 量<2の維持	適正輸血の推進、FFP/MAP 使用量<0.54、Alb/MAP使用 量<2の維持	適正輸血の推進、FFP/MAP 使用量<0.54、Alb/MAP使用 量<2の維持
		認定輸血検査技師の確保	輸血管理室および自己血採 血室の専従医師の確保	日本輸血・細胞治療学会I&A (Insection and Accreditation) 受審
		H33年度	H34年度	H35年度
		適正輸血の推進、FFP/MAP 使用量<0.54、Alb/MAP使用 量<2の維持	適正輸血の推進、FFP/MAP 使用量<0.54、Alb/MAP使用 量<2の維持	適正輸血の推進、FFP/MAP 使用量<0.54、Alb/MAP使用 量<3の維持
				認定輸血検査技師の確保ま たは増員
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	輸血管理料Iの施設基準を満たす輸血管理体制の整備、輸血適正使用加算の施設基準を満たす血液製剤使用状況の維持ができています。			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	臨床検査委員会			
ミッション等	ミッション: 臨床検査業務の効率的かつ円滑な運営を確保する ビジョン: 適正な臨床検査業務の推進と検査精度の維持			
中期計画の項目	a) 正確なデータを提供するための精度管理の推進 b) 感染症対策(院内感染等)における臨床検査の関わり			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a)	*検査精度の維持向上		
		・外部精度管理調査事業への参加 1 日本臨床衛生検査技師会 2 日本医師会 3 茨城県臨床検査技師会 ・内部精度管理の強化		
	b)	*感染症対策への協力体制の強化		
		・院内感染症対策委員会への参加協力 ・感染症制御チーム(ICT)への参加		
		H33年度	H34年度	H35年度
a)				
b)				
計画期間前 (平成29年度まで) の実績				

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	栄養管理委員会			
ミッション等	ミッション: 最良の心ある食事サービスと栄養ケアを提供する体制を管理する。 ビジョン: チーム医療を実践し、栄養管理業務体制の充実強化を推進する。			
中期計画の項目	a) 栄養管理の推進 b) 給食を通じた患者サービスの向上			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	栄養管理業務の推進に向けた検討 ① 栄養食事指導対象の拡大 ② 栄養情報提供書の作成強化 ③ 栄養サポートチーム(NST)の活動強化		
	b	給食を通じた患者サービスの向上に関する検討 ① 給食業務委託業者と連携した献立改善 ② 喫食調査等の実施		
		H33年度	H34年度	H35年度
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	(H28年度の実績) 1 NST実施状況報告 2 給食業務の委託化に伴う給茶機の導入検討 3 栄養指導の推進 (対象拡大)			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	診療情報委員会				
ミッション等	ミッション: 適正な診療情報の管理 ビジョン: 適正な診療情報が速やかに提出される管理体制.				
中期計画の項目	ミッション・ビジョンを達成するために下記に取り組む。 a) 卒後臨床研修評価機構の評価に則った退院サマリー1週間以内の完成率100%、研修医カルテ未承認、手術記載の未記載の徹底管理 b) 診療記録質的監査の強化				
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度	
	a	<ul style="list-style-type: none"> ・退院サマリー1週間以内完成率90%以上を達成 ・研修医カルテ未承認、手術未記載等の管理徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院サマリー1週間以内完成率92%以上を達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院サマリー1週間以内完成率94%以上を達成 	
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回実施。 ・監査項目について検討 ・死亡診断書の質的監査開始 			
		H33年度	H34年度	H35年度	
	a	<ul style="list-style-type: none"> ・退院サマリー1週間以内完成率96%以上を達成 ・研修医カルテ未承認、手術未記載等の管理徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院サマリー1週間以内完成率98%以上を達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院サマリー1週間以内完成率100%を達成 	
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回実施。 ・監査項目について検討 ・死亡診断書の質的監査開始 			
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績	○平成28年度退院サマリー1週間以内完成率83.1%, 2週間以内完成率95.9% ○診療記録質的監査の改定			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	システム委員会			
ミッション等	ミッション：医療安全と収益率アップに貢献する電子カルテ構築 ビジョン：病院内のすべての職種に対して利便性の向上をもたらし、患者様に対して安全性の向上をもたらす電子カルテシステム構築を目指し、収益性の向上に寄与すること。			
中期計画の項目	①新電子カルテシステムにおける利便性向上 ②新電子カルテシステムの安定した運用			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	①	○導入時に開発を見送った仕様書項目の見直し。 ○改善要求した事案の実装 ○更なる改善点の提起 ○新しいソリューションの模索 ○新しくカスタマイズする項目の洗い出し	→	
	②	○インフラ整備の推進 ○安定運用のための保守整備推進 ○運用の見直しにより安全性の向上の推進	→	
		H33年度	H34年度	H35年度
	①	→	○新電子カルテシステム構築のための現行システムの見直し ○他のベンダーからの情報収集	○新電子カルテシステムのための要件定義書作成
	②	→		
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	○新電子カルテ運用開始			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	COI委員会・COI審査委員会			
ミッション等	ミッション: 研究者・職員の利益相反(COI)を審査することで、透明性を確保し、COIを適正に管理する。 ビジョン: 病院長が、COI 委員会の意見に基づき、改善に向けた指導、管理を行う体制を確立する。			
中期計画の項目	a. COI定時申告の100%達成に向けた活動			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	COI定時申告の100%達成に向けて本申告の必要性を周知徹底していく。	同左	同左
		H33年度	H34年度	H35年度
	a	COI定時申告の100%達成に向けて本申告の必要性を周知徹底していく。	同左	同左
計画期間前 (平成29年度まで) の実績				

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	医療ガス・医療機器安全管理委員会			
ミッション等	ミッション: 医療ガスおよび医療機器の安全管理を行う。 ビジョン: 機器関連インシデント情報の速やかな収集と対応。			
中期計画の項目	医療ガス・医療機器ともに使用にあたって、患者に安全で確実に使用されるよう保守が行われているか検討する。また、PMDA等からの医療安全情報を積極的に収集し、医療安全管理委員会などとの連携も含めて安全管理の体制を確保する。			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
		医療ガスの使用上の安全 確保を目的とした保守点検・修理・更新を検討・実施する		
		医療機器の安全使用のため、院内・院外問わず情報収集に努め安全使用を目的とした改善のための方策を実施する		
		<ul style="list-style-type: none"> ・院内医療機器の調査 ・PMDA安全性情報収集 ・機器関連インシデント検証 		
		H33年度	H34年度	H35年度
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・院内において使用される医療ガス設備について点検・修理・更新を報告・検討した。 ・PMDAから通知される医療機器安全性情報・回収情報について調査・対応を行った。 ・医療安全管理委員会で報告される医療機器インシデントを検討、再発防止策を講じた。 			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	災害対策委員会			
ミッション等	ミッション: 広域災害時に災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として対応するための対策を検討する。 ビジョン: 実際に広域災害が発生した時に迅速かつ適切に対応できること。			
中期計画の項目	大地震等広域災害時に、当院が災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として迅速かつ適切に対応するための災害対策を検討する。 また、検討により必要性が認められた資機材の配備を行う。			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	ア	防災訓練		→
	イ	災害拠点病院訓練		→
	ウ	災害対策本部設置訓練		→
	エ	緊急被ばく受入訓練		→
	オ	原子力災害拠点病院訓練		→
	カ	原子力災害拠点病院講習会		→
年度別計画		H33年度	H34年度	H35年度
	ア	防災訓練		→
	イ	災害拠点病院訓練		→
	ウ	災害対策本部設置訓練		→
	エ	緊急被ばく受入訓練		→
	オ	原子力災害拠点病院訓練		→
	カ	原子力災害拠点病院講習会		→
各年度の達成状況 ※毎年度末に記入		H33年度	H34年度	H35年度

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	臓器移植調整委員会			
ミッション等	ミッション: 臓器移植医療の推進 ビジョン: 臓器移植普及啓発により臓器提供症例件数の増加			
中期計画の項目	ミッション・ビジョンを達成するために下記に取り組む。 a)患者・家族・病院職員への啓発活動 b)臓器提供のための体制強化			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a)	1.広報誌の作成(4回/年) 2.ポスター掲示 3.外来待合室で啓発ビデオを流す	1～3継続 4.臓器移植に関する講演会開催	1～3継続
	b)	1. 臓器移植関連の院外研修会への参加 2.他病院との症例検討会開催	1継続 3.臓器移植コーディネーター1名増員(研修会の参加) 4.臓器提供机上シミュレーションの実施	1～2継続
		H33年度	H34年度	H35年度
	a)	1.広報誌の作成(4回/年) 2.ポスター掲示 3.外来待合室で啓発ビデオを流す	1～3継続 4.臓器移植に関する講演会開催	1～3継続
	b)	1継続 4.臓器提供机上シミュレーションの実施	1～2継続 3.臓器移植コーディネーター1名増員(研修会の参加)	1継続 5.ドナーディテクションの実施
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	DMAT(災害時急性期医療)チーム				
ミッション等	<p>ミッション: 災害急性期に被災地の医療チームとして機動性を持って活動すること。</p> <p>ビジョン: 現場の医療だけでなく、被災地の病院支援や被災地の外に搬送する広域医療搬送など、機動性、専門性を生かした多岐にわたる医療的支援を行うことを目指す。</p>				
中期計画の項目	<p>a) DMATチームの人材確保(日本DMAT登録者増員)</p> <p>b) 災害対応のための備品整備</p>				
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度	
	人材確保	<p>日本DMAT隊員増員(年1名異動も考慮する)</p> <p>数値目標 14名 チーム数 2</p>	<p>日本DMAT隊員増員(年1名異動も考慮する)</p> <p>数値目標 15名 チーム数 3</p>	<p>日本DMAT隊員増員(年1名異動も考慮する)</p> <p>数値目標 16名 チーム数 3</p>	
	備品整備	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応用テント購入 ・増員分備品購入 ・ユニフォーム等損耗等に対する既存隊員用追加購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・生体情報モニター購入 ・増員分備品購入(3チームへの増加を踏まえた、ドクターカーに準じた持ち出し医療資器材整備) ・ユニフォーム等損耗に対する既存隊員用追加購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・AED(自動体外式除細動器)購入 ・増員分備品購入 ・ユニフォーム等損耗に対する既存隊員用追加購入 	
		H33年度	H34年度	H35年度	
	人材確保	<p>日本DMAT隊員増員(年1名異動も考慮する)</p> <p>数値目標 17名 チーム数 3</p>	<p>日本DMAT隊員増員(年1名異動も考慮する)</p> <p>数値目標 18名 チーム数 3</p>	<p>日本DMAT隊員増員(年1名異動も考慮する)</p> <p>数値目標 19名 チーム数 3</p>	
	備品整備	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯型吸引器購入 ・搬送用人工呼吸器購入 ・増員分備品購入 ・ユニフォーム等損耗に対する既存隊員用追加購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯型超音波診断装置購入 ・増員分備品購入 ・ユニフォーム等損耗に対する既存隊員用追加購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者搬送用車両更新 ・増員分備品購入 ・ユニフォーム等損耗に対する既存隊員用追加購入 	
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績	<p>東日本大震災・つくば竜巻災害・常総水害にDMATチームを派遣実績あり。また、DMATとしての派遣ではないが、熊本地震にもDMATチームメンバーを派遣している。今年度内に、DMAT車両を1台購入予定である。現時点で、日本DMAT登録隊員は13名(医師5名、看護師6名、ロジスティクス2名)、2チーム(1チーム4-7名)である。</p>			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	健康支援室			
ミッション等	ミッション: 職場における心身の健康づくり。 ビジョン: 職員が希望を持っていきいきと働ける職場とする。			
中期計画の項目	ミッション・ビジョンを達成するために下記に取り組む。 a)メンタルヘルス対策の推進 b)保健指導の強化			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a)	①新規・途中入職看護師面談(面談場所の確保) ②広報誌発行(4回/年) ③ポスター掲示 ④講演会開催(1回/年) ⑤ストレスチェック実施による高ストレス者の希望面談 ⑥ストレスチェック集団分析と職場巡視により職場環境を改善する	①～⑥継続 ⑦専従カウンセラーの増員 ⑧精神科医による相談窓口の開設(ストレスチェック後の面談)	①面談場所の確保により新規採用者の面談の実施 ②～⑥継続 ⑧継続 ⑨各部署に健康支援室との連携をする連絡員を配置
	b)	①定期健康診断(以下健診)の実施 ②健診漏れ者を確認し受診を勧める ③健診・人間ドック結果による要精密者へ必要な検査を勧める ④職業感染対策として抗体価等検査・ワクチン接種の実施 ⑤健診・ワクチン関連のデータ入力、書類管理	①～⑤継続 ⑥保健師の増員 ⑦保健師による保健指導の実施	①～⑤、⑦継続
		H33年度	H34年度	H35年度
	a)	①面談場所の確保により新規採用者の面談の実施 ②広報誌発行(4回/年) ③ポスター掲示 ④講演会開催(1回/年) ⑤ストレスチェック実施による高ストレス者全員の面談 ⑥ストレスチェック集団分析と職場巡視により職場環境を改善する ⑧⑨継続	①～⑥継続 ⑧⑨継続 ⑩専従カウンセラーの増員	①～⑥継続 ⑧⑨継続
	b)	①～⑤、⑦継続 ⑧事務員増員(健診結果データ入力、ワクチン関連の書類管理など)	①～⑤、⑦継続	①～⑤、⑦継続
計画期間前 (平成29年度まで) の実績				

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	臨床試験推進センター			
ミッション等	ミッション: 臨床試験・治験の促進、効率的サポート ビジョン: 県中北部の臨床試験・治験の中心的拠点となる			
中期計画の項目	a)CRC専従4名体制を実現し、専門医療職としてのスキル・アップを図る。 b)新規の多施設共同臨床試験25本/year、治験15本/yearを目標とし、臨床試験、治験の効率的サポート体制を確立する。			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	専従CRC2名の確保 <hr/>	専従CRC3名の確保 <hr/>	専従CRC4名の確保 <hr/>
	b	県が雇用する医療専門職の一つとしてCRCを位置づける。 同時にCRCの資格取得を促進し、CRCの継続的な教育システムを構築する。		
		H33年度	H34年度	H35年度
	a	<hr/>		
	b	<hr/>		
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	a)平成29年度は専従CRC1名、週2日の嘱託CRC1名の体制で臨床試験をサポートしている。 b)平成27～29年度の実績は、新規の多施設共同臨床試験15～20本/year、治験8～10本/yearと頭打ちの状態推移している。			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	地域連携・患者支援センター				
ミッション等	ミッション: 医療機関からの紹介を円滑に受け入れる。診療に伴って起こる課題について相談支援を行う ビジョン: 地域医療連携室(前方支援)と患者相談支援室(後方支援)の統合				
中期計画の項目					
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度	
	1	地域医療連携室と患者相談支援室の適切な業務、人員配置を明らかにする	地域医療連携室と患者相談支援室の将来設計を明らかにする	地域医療連携室と患者相談支援室の適切な執務スペースを計画する	
	2	地域医療連携室の適切な業務、人員配置を明らかにする	地域医療連携室と患者相談支援室と業務配分の適正化を図る	1に統合	
	3	患者相談支援室の適切な業務、人員配置を明らかにする	地域医療連携室と患者相談支援室と業務配分の適正化を図る	1に統合	
		H33年度	H34年度	H35年度	
	1	地域医療連携室と患者相談支援室の統合業務に適した執務室を計画する	地域医療連携室と患者相談支援室の同一執務室に統合する	地域医療連携室と患者相談支援室の同一執務室を評価する	
	2				
	3				
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績	地域連携・患者支援に対する委員会を立ち上げた。			